製作 | 株式会社 現代ぷろだくしょん

監督・エグゼクティブプロデューサー
山田火砂子

原作 | 三浦綾子『母』(角川文庫)
プロデューサー | 上野有
ライン・プロデューサー | 櫻井陽一

脚本 | 重森孝子
坂田俊子
山田火砂子

音楽 | 渋谷毅
撮影 | 長田勇市(J.S.C)
録音 | 沼田和夫

助監督 | 増田天平
美術 | 都留啓亮
装飾 | 加藤健一

編集・CG | 岩谷和行
衣装 | 村島恵子
ヘアメイク | 小堺なな

協力 | 公益財団法人三浦綾子記念文化財団／三浦綾子読書会／東京母親大会連絡会／北海道和寒町／秋田県大館市／YMCA／YWCA／小樽シオン教会他
推薦 | 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟中央本部

映画「母 ―小林多喜二の母の物語」にかける思い

原作は三浦綾子さんの小説「母」です。クリスチャンの三浦さんは、無残に殺されたイエスと嘆き悲しむマリヤの絵をみたとき、「獄死した小林多喜二を想像した」と語っています。物語の中で多喜二の母、セキは同じ息子を殺されたマリヤに心から同情し、キリストを知ることで救われていきます。

そのセキを演じるのは、寺島しのぶです。彼女は、製作発表の席で「原作を読み、セキの海のように広い母性と心の強さを感じた。多喜二という人物を日本の人に知ってもらうため、全身全霊を込めて演じたい」と話しました。その言葉通りの熱演をみてください。

監督の山田火砂子は、戦争への危機を感じ、「時代を逆戻りさせない」決意のもとこの作品を作りました。

この映画を観ていただくことで「二度と戦争はさせない」、「希望ある新しい日本」をつくっていく気持ちを強くしていただければと願っております。

秋田県釈迦内村、小作農と小さなそば屋で生計を立てる貧しい家の娘にセキは生まれた。

高額な地代のため、貧しい農家の娘たちは身売りするより仕方がない。セキの友達も売られていった。

学校へ行きたくても、男の行くところだと親は相手にしない。15歳で小林の家に嫁いだセキと夫末松の次男が、「蟹工船」等のプロレタリア小説を書き残し、昭和8年2月20日に虐殺された作家、小林多喜二である。

セキは優しい母親であった。自分は字もろくに書けなかったが、海のように広い心で子供たちを愛し育てていく。多喜二は叔父の世話で、小樽高商（現小樽商科大学）を卒業し銀行に勤めるまでになる。当時の銀行は高給で一生涯楽に暮らせる程であった。しかし多喜二は貧しい人の味方となって小説を書くという信念を貫き通す。「武器を作るお金で皆に白い米のご飯を！」と命掛けて反戦を訴えていく。

セキは息子の多喜二を信じ続けた。「多喜二のすること信用しねで、誰のすること信用するって」

しかし危険分子とみなされた多喜二は遂に国家権力の手によって殺されてしまう。

「多喜二！もう度立って見せねか！皆のためにもう度立って見せねか！」

多喜二の死を受け入れられず苦しむセキ。長女チマの誘いで教会を訪れたセキは、イエス・キリストの死の話を聞き、何も悪い事をしていないのに殺されたイエスと多喜二の姿を重ね合わせ、思いを巡らす…。

★上映前に山田火砂子監督の舞台挨拶を予定しています★

2018年 **3月28日(水)** 〈開映時間〉①10:30 ②14:00 ※開場は30分前(予定)

小金井 宮地楽器ホール 小ホール

※JR中央線 武蔵小金井駅南口駅前

前売券：1200円
（当日：1500円）

前売券のお申込み・お問合せ　主催：現代ぷろだくしょん TEL:03-5332-3991